

新潟市マンガ・アニメを活用したまちづくり構想(第2期) パブリックコメント 意見及び市の考え方

No.	該当箇所	素案記述	意見等	市の考え方	修正
1	P4 23行目	「マンガ・アニメ情報館」では、全国各地を巡回する作品展のほか、原画展としては全国初になる人気作品の作品展を企画・構成	貴重な原画を鑑賞できる機会を企画した点は評価できますが、入場料はちょっと高く感じました。次世代の育成を施策として考えているのであれば、家庭の負担をおさえる意味でも、高校生以下は無料にしてはどうでしょうか？	「マンガ・アニメ情報館」は、土・日・祝日に限り、小・中学生の入館料を無料にしております。マンガ・アニメの特性や作品の価値向上という観点からも高校生の入館料無料化については、想定しておりません。作品展毎に入館料を設定しているため、より気軽に来館できる料金設定を検討していきます。	なし
2	P4・5 第3章2・3	—	第一期の成果（第三章2）と課題（第三章3）が文章として書かれているが、それはそれでいいものの、できれば別紙に表などで成果や課題を市民にわかりやすく整理してほしい。 できれば項目ごとにある程度詳細に。	第1期の取り組みの達成状況を参考資料に追加します。	あり
3	P5 18行目	「参加・利用したことがない」と回答した人が81.8%となっていることから、より多くの人気が気軽に参加・利用してみたいと思えるような工夫が必要	元々マンガやアニメに興味のない層の関心を引こうとすることに意味があるのでしょうか？それよりは、マンガやアニメに興味があるが、施設やイベントの参加・利用をしていない層の掘り起こしの施策を考えた方が良いのではないのでしょうか？	アンケートの結果を踏まえ、知っているが利用したことのない層への働きかけや、マンガ・アニメに触れるきっかけづくりと捉えています。	なし
	P7 11行目	マンガ・アニメに興味がある層はもとより、興味がない層の関心を引き、参加しやすい取り組みを行う			
4	P7・8・9 第5章1・2・3	—	施策がある程度細かく書かれているものの、具体的な詳細な部分が読み取りにくい。民間との諸事情による計画の立てづらさ等あるだろうが、できるだけ小項目でも一定の詳細部分を分かりやすくするべきと考えられる。	各Visionに付帯する小項目について、方向性を示しつつ、具体的な取り組みを記載しています。	なし
5	P7 第5章1(1)	◆「マンガ・アニメ情報館」で有名作品の巡回展や自主企画による企画展を開催します。	左記に以下の文言を付帯する。 巡回展や企画展において、新潟の地上波・BSで放送されなかった作品が多々あることから、市民に分かりやすい展示・解説方法を検討する。 また、開催中は関連ソフト販売などで巡回展・企画展の関心を高める。 (理由) 巡回展・企画展開催時にCM等が流れているものの、そのほとんどの作品が新潟県内民放で放送されていないアニメーション作品であることが多い。 例えばCM流れていても関心を起こしにくく、こうした限られた中でできる方法は地域的に見られない市民のための展示・解説方法以外難しいことから付帯をお願いするものである。	これまでも分かりやすい展示・解説方法を工夫してきましたが、ご意見を踏まえ、今後も引き続き取り組んでいきます。	なし

新潟市マンガ・アニメを活用したまちづくり構想(第2期) パブリックコメント 意見及び市の考え方

No.	該当箇所	素案記述	意見等	市の考え方	修正
6	P7 第5章1(2)	—	<p>◆の部分に対して追加を求めます。 ◆小学校の図工・中学校や高等学校の美術における漫画・アニメーションに対する理解を教育委員会や教育機関に向けて働きかけます ◆昨今のデジタル化において、アニメーションやそれに付帯するゲームにおいて重要なため、プログラミングなどの情報学を学ぶ大学に関心を持ってもらえるよう、働きかけるほか、サークル等への協力を検討します。</p> <p>(理由) 次世代育成に関する関心の熟成も大切ではあるが、同時に教育面も求められる。 小中高校における教育への導入があると、当面の理解に対することは一歩前進と思われる。 また、大学の情報系への働きかけだが、市内には新潟大学工学部と新潟国際情報大学情報文化学部それぞれ情報学を主として学ぶ学部・学科等が存在しており、IoT時代におけるアニメーション・ゲームにおいてプログラミングを習得する環境は整備されている。 こうしたところにも働きかけることによって、専門学校のみだった視野が広がるのではないかと考え、追加を求めるものである。</p>	<p>教育への導入については、学習指導要領によるところが大きく、難しいと考えておりますが、小・中学校と連携し、校外活動などを活用により、マンガ・アニメへの関心を高めていきます。 ご意見のとおり、大学との連携も必要と考えますので、「マンガの家」のマンガ講座の記述について、大学・専門学校といった教育機関との連携という記述を追加します。</p>	あり
7	P7 23行目	小・中学生の時からマンガを描く楽しみなどを体験する機会を創出する	<p>マンガを描く楽しみがわかる小・中学生は他人の指示がなくとも、いつでも自ら自由に描いています。 一方で、なかには描くのを嫌がる子供もいます。</p>	<p>マンガ・アニメに触れ、マンガを描くきっかけをつくり、楽しさを知ってもらうことで、自らマンガを描く人材を増やしていきたいと考えています。</p>	なし
8	P7 30行目	◆校外活動での「マンガ・アニメ情報館」「マンガの家」の活動など、小・中学校との連携を進めます。	<p>小・中学校との連携で「マンガ・アニメ情報館」、「マンガの家」の活用を検討する前に、今はやりのマンガやアニメが何かを確認すべきです。 たとえば人気のマンガは小説バージョンでも出版されています。 子供たちはお気に入りのマンガの小説バージョンを読み漁っています。 学校の図書館で、貸出件数の多い小説バージョンのマンガ本を「マンガの家」に取り揃えたいかがでしょうか。「マンガの家」利用の促進につながる可能性があると思います。</p>	<p>作品自体の人気も重要ですが、新潟市ゆかりのマンガ家・クリエイターの紹介や、新たな作品に触れる機会を提供することも施設の重要な役割の一つと考えています。「マンガの家」の蔵書については、今後も幅広いジャンルの本を取り揃えていきたいと考えています。</p>	なし

新潟市マンガ・アニメを活用したまちづくり構想(第2期) パブリックコメント 意見及び市の考え方

No.	該当箇所	素案記述	意見等	市の考え方	修正
9	P9 第5章3(3)	◆京都市や埼玉県などマンガ・アニメ関連のイベントを行っている自治体との相互出展をはじめとする連携により、情報発信を行います。	左記を次のように拡充させて改める ◆京都市や埼玉県、鳥取県や高知県などマンガ・アニメ関連のイベントや政策を行っている自治体との相互出展をはじめとする連携により、情報発信を行います。また、中長期的にこれらの自治体とのマンガ・アニメに関する交流協定も視野に入れた活動を行うほか、自治体サミットなどによる相互交流を行います (理由) 相互出展では情報発信としての勢いが弱いと考える。すでに政策として先進を走る三大都市圏以外の地方である鳥取県や高知県はすでに県レベルでの交流をし、東京の秋葉原との交流も持ち、それぞれで年1回漫画家・声優・ゲーム関係者などを招いた一大イベントが存在する。むしろ、こうしたイベントや政策をとる自治体を集めたサミット的なイベントを仕掛けるのも一つと考え、追記をお願いするものである。	自治体との連携については、ご意見を踏まえ、情報発信だけではなく、相互交流についての記載を追加します。また、自治体は、京都市や埼玉県だけに限るものではなく、ご意見をいただいた鳥取県や高知県などを含めた他都市との連携を想定しています。	あり
10	—	—	カタカナ語が多く使われておりましたが、和訳をカッコ書きで入れるか、最後に用語集としてまとめてあると助かるなと思いました。添付をお願いします。	参考資料に、用語集を追加いたします。	あり
11	—	—	新潟市マンガ・アニメを活用したまちづくり構想の第三期見直しの時期にかかった場合、本政策が継続する場合、見直し検討委員会に以下の委員を加えることを求める ○アニメーションを放送する放送局 ○新潟大学工学部もしくは新潟国際情報大学情報文化学部の教員 (理由) 前者は市民理解が遅れている理由と直結するが、一地方としてアニメーション放映本数が少ないことが、本政策的に大きな足かせになると予想できる。一方で、昨今のプライムタイムで放送されるテレビドラマの多くは、原作がマンガによるものが大きく、今後の理解において重要なキーになるのが放送局である。 後者は先述のデジタル化に対応することによる、学識経験者のすそ野を広げるためのものである。	次期見直しの際に、いただいたご意見を参考にを検討させていただきます。	なし